

祈りのしおり

～家庭での信仰生活のために～

推薦の言葉

主教イグナシオ入江 修

信徒数の減少傾向が続く中、2019年に横浜教区の実状を当時の総務主事に調査・解析をしてもらったところ、受洗当時の年齢が30歳未満の人たちの堅信受領率、そして現在堅信受領者の率が、それより上の年代で受洗した人たちと比べて明らかに低いことが分かりました。特に10歳未満で洗礼を受けた人たちの堅信受領率が低く、それは親から子、子から孫への信仰の継承が充分になされてこなかったということを表しています。

そこで、いかにして信仰の継承を確実なものとしていくか、言い換えれば幼くして洗礼を受けた人たちをいかにして堅信へ、そして現在堅信受領者へと育み導いていくのか、これが一つの重要な課題と考えられます。更に申せば、信仰の継承がなされていないところに、信徒でない人たちが関心を向けてくれるのでしょうか。

この「祈りのしおり」は、そのような課題に私たちが取り組み、家庭で子どもたちと共に祈る時を持っていただくことを念頭に、宣教委員会によって作成されました。

子どもたちは大人たちの言うことはなかなか聞いてくれません。しかし、大人たちのやることはまねします。聞いてくれないのは、大人たちの矛盾を見透かしているのかも知れません。

この「祈りのしおり」を用いていただくことによって、それぞれのご家庭において家族が共に心を合わせて祈り、殊に大人の方たちの祈る姿を通してその信仰が子どもたちに証され、子どもたちの信仰が確かなものとして育まれていくことを願っています。

いつどんな時にも、神さまは私たちに祝福をお与えくださいます。祝福とは、「あなたは幸い」という神さまの宣言です。祈りは、いつどんな時も、私たちが神さまの祝福のみ前に立たせてくれるのです。

†主にありて